

県南養殖漁場底質環境調査

西岡智哉・斎浦耕二・平野 匠

魚類養殖に伴う残餌や糞等の排出物（有機物負荷）は水中で分解し、一部は海水交換によって漁場外に流出するが、一部は沈降物となって海底に堆積する。魚類養殖漁場の底質を調べることによって、有機物負荷の程度を把握し、魚類養殖の効率的な経営に資することを目的とする。

方法

美波町明丸地先の養殖漁場（図1）において、平成24年9月24日にエクマンバージ採泥器で採泥し、表層泥のCOD、全硫化物、及び強熱減量を分析した。

結果及び考察

全硫化物については、ほとんど検出されず、平年同様の傾向を示した。CODについては、St.6において平年よりやや高く、他の地点は平年並みであった。強熱減量については、全点的にほぼ平年並みであった。

明丸地先においては、全硫化物、CODとも水産用水基準を大きく下回っており、漁場環境は引き続き良好な状態を維持している。

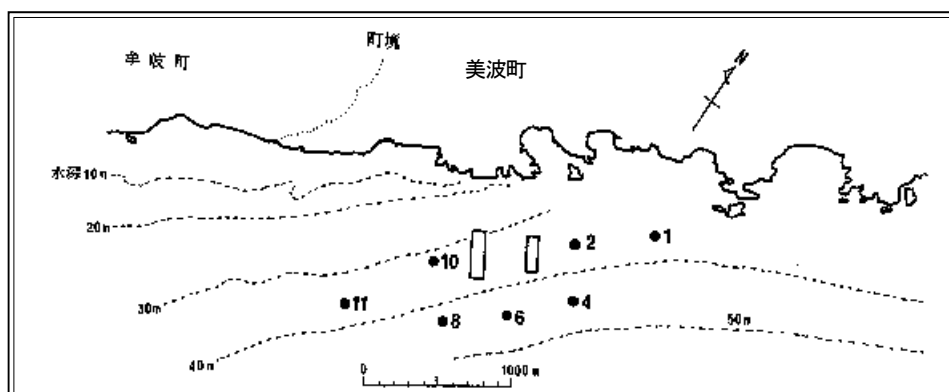


図1. 明丸地先調査地点図

表1. 県南養殖漁場底質環境調査結果

調査地点	年月日	地点	調査時刻	水深 (m)	泥温 (°C)	乾泥率 (%)	全硫化物 (Smg/g乾泥)	COD (O ₂ mg/g乾泥)	強熱減量 (550°C・%)	外観	浮泥層厚 (mm)	底質の性状		
												浮泥	浮泥以外	臭気
明丸	平成24年9月24日	1	10:40	42	27.4	90.3	未検出	1.15	2.0	砂礫	0	灰	不明	なし
		4	10:55	48	26.0	67.5	未検出	4.55	3.4	砂泥	0	灰	不明	小
		6	11:10	46	25.8	62.5	0.05	11.57	4.2	砂泥	0	灰	不明	小
		8	11:30	38	27.4	88.9	未検出	0.58	1.7	砂	0	灰	不明	なし
		10	11:40	28	27.8	73.6	未検出	0.72	2.5	砂泥	0	灰	不明	なし
		11	11:50	28	27.4	72.2	未検出	4.46	2.9	砂	0	灰	不明	なし

